絆を深める

新日鉄住金は、さまざまなスポーツを支援しています。野球、柔道、ラグビー、バレーボール、サッカーチームは、選手の育成とともに、ジュニアスポーツチームを指導したり、チームの立地する地域で、自治体などに協力して各種イベントに参加したり、地域に根ざした活動を積極的に進めています。

ラグビー

スクラム組んで東北復興

釜石シーウェイブスRFC（岩手県）は、1978～84年日本選手権7連覇を達成した「北の鉄人」たちの栄光と誇りを受け継いだクラブチームです。

2011年の東日本大震災では、スタッフや選手も被災者でありながら、震災直後より支援物資の搬送、高齢者の移動などの救援・復興のボランティア活動に尽力しました。チーム運営は一時大変厳しい状況となりましたが、全国の皆様から温かいご声援を受けて、2014年シーズンはジャパンラグビートップリーグ昇格をかけて入替戦に挑むなど、奮闘しています。

バレーボール

日本バレー界をけん引

男子バレーボールチームの堺ブレイザーズ（大阪府）は、V・プレミアリーグが開幕してから優勝 17回、黒鷲旗全日本選抜大会優勝 14回など、輝かしい実績を誇っています。前身の新日鉄堺バレーボール部時代から田中幹保、植田辰哉、中垣内祐一など錚々たる選手を輩出し、日本バレーボール界をけん引してきました。

本拠地の大阪府堺市と準本拠地の福岡県北九州市では、地域の中学校に男子バレーボール部のない生徒を対象にジュニアブレイザーズを結成し、レベルの高い指導と育成を行っています。また行政とのタイアップによる青少年健全育成事業への協力、堺市内5区や和歌山市でバレーボールスクールを開講するなど、地域のスポーツ振興の一翼を担う活動も展開しています。

サッカー

Jリーグの理念を体現

サッカーJリーグの鹿島アントラーズFC（茨城県）は、日本のトップクラブチームの一つとして日本サッカー界を牽引しています。地域ではスポーツ振興を目的に、選手によるホームタウン5市全73校への小学校訪問（2007～08年）、コーチ陣による幼稚園・保育園・小学校巡回指導（02年～）、ホームタウン内の小学生を無料招待するキッズパスの配付（06年～）、試合時におけるホームタウン5市とフレンドリータウン9市町村への市民招待・優待事業などを行い、スポーツ文化の振興というJリーグの理念を体現する地道な貢献活動を続けています。

新日鉄住金のスポーツ支援 地域に根ざした活動で

野球

地域の誇りとなるチームを目指して

米国メジャーリーグへの扉を開いた野茂英雄投手（新日鉄化学（株）（現新日鉄住金化学（株））所属）、日本プロ野球で三冠王に輝いた松中信彦選手、2014年度ドラフト会議で阪神タイガースから1、2位指名を受けた横山雄哉、石崎剛選手ら、これまで数多くのプロ野球選手を輩出しています。

新日鉄住金かずさマジック（千葉県）、新日鉄住金東海レックス（愛知県）、新日鉄住金鹿島硬式野球部（茨城県）では、それぞれ都市対抗野球大会への出場を目指すとともに、小中学生を対象に野球教室を開催するなど、全国トップレベルのチームとして地域の活性化に貢献しています。

柔道

“心・技・体”を伝授

1949年創部以来、世界・オリンピックで活躍した選手を数多く輩出し、1964年東京五輪で神永昭夫選手が銀メダル、1992年バルセロナ五輪で吉田秀彦選手が金メダル、2012年ロンドン五輪で西山将士選手が銅メダルを獲得しました。また全日本実業柔道団体対抗大会では、61回中31回の優勝を誇っています。

兵庫県姫路市と西播地区では、中高生を対象とした合同練習会も継続開催するなど、地域の皆さんとの交流を図っています。さらにOBが中心になって子どもたちを指導している広畑柔道教室では、今年の少年柔道大会で地方予選を勝ち抜き、約10年ぶりに団体で全国大会への出場を果たしました。新日鉄住金柔道部と同じ柔道場を使用しているため、現役の柔道部員も合間を縫って、子どもたちにアドバイスを送っています。また、愛媛県では、10年前から月1回、愛媛県柔道協会の協力のもと柔道教室を開催しています。昨年は国体強化選手や中高生に“心・技・体”を直接指導しました。